

第67回三島市美術展 入賞者一覧

【日本画の部】

賞	目録No.	氏名	題名	サイズ
市長賞	24	佐藤 末美	諏訪大社御柱祭	F50号
議長賞	14	山崎 則夫	ベルゲン・旅愁	P30号
教育長賞	19	中山 ちづ	めぶく	F25号
実行委員長賞	23	渡邊 千鶴子	釣鐘草	P40号
舜堂賞	29	望月 雅未	岬	10号変形
奨励賞	16	高橋 さち子	唄が聞こえる	F20号
奨励賞	22	杉山 清弘	富良野にて	F20号

〔審査員講評〕

風景、花、人物等、バラエティーにとんだ作品で目を楽しませていただきました。

市長賞の「諏訪大社御柱祭」は、バックの木々、社、人物、一つひとつがしっかりと描かれ、雰囲気のある素敵な作品に仕上がっています。

議長賞の「ベルゲン・旅愁」は、ドイツのライン川の風景でしょうか、家々の赤・白・群青が緑の中にとけこんで、旅愁を感じさせてくれます。

教育長賞の「めぶく」は、緑色とバックの青がきいて、季節感がよく出ています。

審査員 清水 照夫、 柘植 好子

【洋画の部】

賞	目録No.	氏名	題名	サイズ、技法
市長賞	34	松永 庸子	生きる風	50号 パステル アクリル
議長賞	33	森 久子	1万4千年前の痕跡	P100号 油彩画
教育長賞	40	安藤 幸子	私の中のアリスちゃん	F80号 油彩画
実行委員長賞	39	古屋 憲男	新旧融和	F20号 油彩画
舜堂賞	27	古賀 雅子	白菊	10号 水彩画
奨励賞	48	大濱 ゆう子	想いはいろいろ	F15号 油彩画
奨励賞	24	高木 左内	岩手散居村風景	F20号 油彩画
奨励賞	13	石川 俊一	残雪の山	10号 油彩画
奨励賞	5	平岡 俊彦	ピアノの練習	10号 油彩画
奨励賞	4	勝又 初江	城山	6号 水彩画

〔審査員講評〕

『生きる風』(市長賞)は、描く楽しさが感じられます。つかみどころのないモチーフ達の鮮度の良さが光りました。

議長賞と教育長賞は、共に力作であります。『1万4千年前の痕跡』は、主題とマチエールが合致していることが魅力でもあり意外性に乏しい点でもあります。『私の中のアリスちゃん』が市長賞でないのは何故！？画面の隅々まで作者のコントロールが効いている素晴らしさと物足りなさ。

これからも絵画に親しむ方がより増える事を望んでいます。

審査員 川合 朋郎、高梨 芳実

【彫刻・工芸の部】

賞	目録No.	氏名	題名	技法
市長賞	19	長澤 武司	鍛鉄 布目象嵌 木蓮の宵	彫金
議長賞	1	福澤 素子	八十八華の花丸文様振袖	日本刺繍
教育長賞	9	望月 すみ子	煌き	鎌倉彫(創作)呂色漆に金粉
実行委員長賞	5	池田 マサヨ	月山弥陀ヶ原湿原	布アップリケ
舜堂賞	21	市川 興一	木の葉天目抹茶盃	陶芸
奨励賞	4	鈴木 忠	阿弥陀如来坐像	木彫仏像

〔審査員講評〕

彫刻・工芸の魅力は、素材の力と作者の芸術性との融合による表現です。皮、竹、土、布等の個性を表に出すとさらに一つ上のステップに行けるかと思えます。

例えば、上薬も均一に塗るのではなく、目立たせたい所と抑えることで表現に深みが出てきます。どれも楽しんで作られておられることが作品から伝わり、三島市美術展にふさわしい展示になりました。

審査員 志田 理子、渡辺 憲二

【写真の部】

賞	目録No.	氏名	題名
市長賞	52	宮澤 幸代	シャボン玉さあーん。
議長賞	64	岩谷 夕起子	京都慕情
教育長賞	2	川野 昌代	蜂熊
実行委員長賞	83	細川 純也	斜光の中で
舜堂賞	19	目黒 暁	初夏
奨励賞	50	岡村 正文	急ぎ足の小径
奨励賞	59	水口 眞佐子	不思議発見
奨励賞	55	神田 照子	キラキラお祭
奨励賞	43	高村 昌貢	お母さんは大変
奨励賞	47	曾我 武	黄金島
奨励賞	75	渡邊 修一郎	あしながおじさん
奨励賞	17	中西 博史	真夜中の散歩
奨励賞	25	八木 憲一	羽ばたく未来

〔審査員講評〕

出展作品は、作家一人一人の思いや自然に向き合う姿勢等が伝わって来て良かったと思えました。また、スナップ写真は身近な人々を撮られていて、表情豊かな作品が多く感じられて好感が持てました。

風景にも撮られるのではなく、自己の投影が写されていたのも嬉しく思います。

時代性や社会性を切り取った写真がなかったのは、残念でした。

審査員 銭谷 均、南波 進

【書道の部】

賞	目録No.	氏名	題名
市長賞	10	杉本 敏翠	徐璣詩
議長賞	9	麻生 菁勝	朝桜ほろほろと五月哉
教育長賞	11	久保田 山吹	送遠(遠きを送る)
実行委員長賞	12	佐々木 朋子	雲二つ
舜堂賞	8	増間 五峰	樂府歌辭の一節
奨励賞	39	笹津 治子	飛翔
奨励賞	16	辻 美泉	臨・書譜
奨励賞	35	河野 知世	梅の花

〔審査員講評〕

審査にあたっては作品の傾向を考慮しながら、制作意図が明確で表現力等の優れた作品を選出するよう心がけた。また、漢字と仮名の出品比率にも配慮した。

上位入賞の5点は、どの作も独自性と確かな技量を備えた、見応えのある作品ばかりである。奨励賞については賞の意図を考え、現代書、臨書作品、フレッシュで今後の伸びが期待できる作を選出した。

審査員 池谷 天外、鈴木 玉翠